

平成 27 年度 国立中央青少年交流の家

# 「ほっぴ すてっぴ キャンプ」

平成 28 年 1 月 9 日（土）～1 月 11 日（月） 2 泊 3 日

## ○目的

子供たちが、日常の中では体験しがたい活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通じて、規則正しい生活習慣の大切さや相互に協力し合うことの意義などを学ぶ「子供たちが将来に向けて踏み出す一歩」を応援するキャンプを実施する。

## ○参加者

近隣の児童養護施設の幼児，児童・生徒 計 28 名

## ○事業の内容

### （1）「アイスブレイク」・「目標の旗作り」

#### 中央交流の家職員

キャンプを始めるにあたって、参加者全体の緊張感をほぐすとともに、これから始まるさまざまなチャレンジへの気持ちを高めた。また、キャンプの目標を明確にするため、全員の手形と目標を書いた旗を作成・掲示し目につくようにした。



### （2）「ミニ防災ラリー」

#### 中央交流の家職員・児童養護施設職員

災害時に必要な判断力・行動力を養うことを目的に、4つの課題にグループで協力して挑戦した。グループは上級生が下級生をサポートしながら進むことを期待し異年齢構成とした。防災ラリー後には、グループごとにまとめを行い、本活動プログラムを通して学んだことを発表した。  
4つの課題：①『みんなで脱出』 ②『届け！私の声』  
③『ごろごろ火消し』 ④『もやい結び』



### （3）「雪山体験（スキー・スノーボード）」

#### イエティインストラクター

雪山体験では、スキーもしくはスノーボードにチャレンジした。幼児・小学生のほとんどの子供たちはスキーが初めての体験であったが、何度も転びながらも2日目には全員が滑れるようになった。経験者の中学生・高校生の子供たちは、笑顔でスキー・スノーボード活動を満喫した。



#### (4)「キャンドルのつどい」

##### I部 社会教育実習生・法人ボランティア

第I部は「動」パートとしてレクリエーションを行った。レクリエーションでは、『防災グッズカードゲーム』を班対抗で行った。ゲームの最初に災害への備えに大切なものをみんなでも考えた。ゲームの最後には自分たちの施設のどこに6つの備え（安全・照明・保温・救急・情報・食料）があるかを確認するように伝えた。レクリエーションを行いながらも本キャンプの目的の一つである防災意識を高められるように工夫した。



##### II部 児童養護施設職員

第II部は「静」パートとしてキャンドルセレモニーを行った。一人1本、火のついたキャンドルを手に持ち、中央交流の家で過ごした活動を思い出し、一人一人が感じたことや考えたことを話して、お互いの思いを共有した。



#### (5)「早寝・早起き・朝ごはんを通しての生活習慣の見直し」

##### 中央交流の家職員

キャンプ中は、朝6時起床、7時朝のつどいへ参加、7時30分朝食、夜21時就寝の生活をし、早寝・早起き・朝ごはんの実践を通して生活習慣を見直すきっかけとした。



#### (6)「キャンプのまとめ」

##### 中央交流の家職員

個人でキャンプを振り返り、ワークシートを記入した後、「今後の生活の目標」を考え輪になってみんなの前で発表した。

##### 《参加者の感想》

- 今回のキャンプで実施した早寝・早起きを園（児童養護施設）に戻ってからも継続し、生活リズムを整えたいと思いました。
- ミニ防災ラリーで学んだことを災害が起きたときに活かしたいです。
- 今回のキャンプで、人にやってもらうのではなく、何事も自分でやろうと思う力をもらいました。

##### 《成果と課題》

- キャンプで学んだことや体験したことを通して、全員が今後の生活に活かす目標を設定することができた。
- キャンプを連携して運営することで、中央青少年交流の家が持っているキャンプの運営方法のノウハウを児童養護施設の職員に実践を通して伝えることができた。
- 勤務の都合上、児童養護施設の担当スタッフ全員と事前に打ち合わせを行えなかった。そのため、当日の支援についてとまどいをもつスタッフがいた。事前に全スタッフで打ち合わせを行い、子供への支援方法をしっかりと共有する必要がある。